



板橋区

体協ニュース

第93号

平成27年4月27日発行

「りんりんちゃん」



Itabashi Amateur Athletic Association News

公益財団法人
板橋区体育協会〒174-0051 板橋区小豆沢 3-1-1 小豆沢体育館3階 TEL:03-5915-5568 FAX:03-5915-1705
URL: <http://www.itabashi-taikyo.or.jp/>

会長あいさつ

皆様には平素より体育協会の活動にご理解・ご協力頂き、誠に有難うございます。

皆様のお蔭を持ちまして、昨年度の事業も無事遂行することが出来ました事、深く感謝申し上げます。



新年度から、体育館や競技場などの屋内外施設の指定管理者が東京ドームグループになります。

この機会に、施設の状態・運営について加盟団体の皆様の要望をお聞きました。

皆様からお聞きした課題の解決には費用と時間も必要ですが、新たな指定管理者と協力して、より良い運営が出来るようにして行きたいと思えます。

また、都立城北中央公園の陸上競技場を改修し、サッカー場等を併設した第3種公認陸上競技場建設の要望にも区長様始め区議会の議員の皆様のお力を頂き、夢の実現に向けた活動を続けて参ります。

本年度も、区民に貢献できる体育協会の活動をして参りますので、皆様のなお一層のご協力をお願い申し上げます。

第二に、恒例の指導者交流研修会について、これまで宿泊研修としていましたが、27年度は、女性参加者あるいは連盟役員の皆さんが気軽に参加できる方式にしました。日程は、6月20日(土)午後、ボウリングと懇親会を予定しています。

第三に、体協ニュースは原則として、ホームページ掲載にいたします。ニュースの速やかな掲載と経費の節減が期待できます。

第四は、事業レベルアップの視点で、人気の高い区民ハイキングでは、今回もユニークなコースを設定(奥多摩・谷川岳)し愛好者の方に楽しんでいただきます。また、伝統の高日ロードレースでは40回記念大会に併せ、メイン種目(20km)の参加者拡大を目指します。

このほか、加盟団体育成の一環として、自主事業への寄付金募集事業を設けました。寄付者は税額控除が受けられるので積極的に活用していただければ幸いです。

平成27年度も加盟団体と一体になって体協の活性化を目指します。ご協力の程よろしく申し上げます。
(高澤誠 記)

平成27年度 事業計画

平成26年度は、新組織体制のもと加盟団体の協力を得て堅実に事業を進める一方、新たな課題への取り組みなど前進努力を続けてきました。

この経過を踏まえ、平成27年度事業計画について、特筆すべきポイントを紹介します。

まず第一に、27年度から指定管理者が東京ドームグループに変更になります。体協としてもこの機会を捉え、加盟団体アンケート・ヒアリング調査を行いました。この結果明らかになった課題等の改善について、理事会を中心に指定管理者との協議の場を設けていきます。

平成27年度予算案について

平成27年度予算案は、平成26年度決算見込みを踏まえ、第2期中期マスタープランに対応したものとなっています。

平成26年に大会や行事内容をより充実させるためにロードレース部とハイキング部を事業部として独立させました。平成27年度は参加数の増加を見込んで予算を大幅アップしました。また都民体育大会に参加する各連盟チームの派遣費について、当協会負担分を増大し、予算化いたします。

一方、刷新されたホームページを有効活用すべく、体協ニュースの編集方針を変更して、各連盟の

活動報告はホームページに掲載することとします。このことで印刷費の経費を削減します。指導者交流研修会はボウリング体験として日帰り開催といたします。これらの変更で事業経費の大幅削減を実現しました。

既に御存知の通り4月より板橋区体育施設指定管理者が(株)コナミスポーツ&ライフより(株)東京ドームグループに変更となります。これに併せて、

当初は委託業務の拡大を前提に協議・予算編成を行ってきましたが、最終的に概ね従来通りの業務を受託することになりました。

これにより、平成27年度予算(補正概算)の経常収益、経常費用は約53,800,000円、税引き後一般正味財産は約113,300,000円となる見込みです。

(吉田輝男 記)

青少年スポーツ指導者講習会 第3講座

平成26年12月5日(金) 文化会館4階大会議室

テーマ：「スポーツに活かす動体視力トレーニング」

～予測できないものを見る力のレベルアップ～

講師：藤川陽一氏 (株)アファン代表取締役

「目と脳を鍛えれば人間の行動は俊敏になる」を持論とし、野球、サッカー、卓球、空手、ボクシング等のスポーツ分野や交通安全・認知症予防等幅広い分野で講演・コーチング活動を実践。

・著書例「見る力で脳力は決まる」



藤川陽一先生

平成26年度青少年スポーツ指導者の第3講座は、講師に、藤川陽一先生を迎え開催されました。動体視力&脳力のトレーニング法の開発者として、視覚認知トレーニングの研究開発を行ってきた体験談を中心に講演していただく。先生の持論は「目と脳を鍛えれば行動力は飛躍的に高まる」です。

◎ 視覚認知とは？

最初に定義を教わります。視覚認知とは、目で見たものを脳で認知・理解する事。目の入力機能と脳の認知機能の連携で発揮される能力で、動体視力は動いた物を視覚認知する事で、動体視力が重要との事でありました。

◎ 動体視力と反応動作の関係は？

先生は空手選手で無理して戦っていてセンスがないねと言われましたが、このセンスに関係するのが動体視力だと解ってからは、戦績が飛躍的に向上したとの事です。センスがないと言われた空手が5段までになりました。また運転中の認知・判断にも動体視力が関わってまして、動体視力はトレーニングにより改善や向上が可能で、動体視力を鍛えると反応動作が速くなり、運転のレベルを向上させまして、必ずや安全運転に役立つとの事でありました。

◎ ジャンケン手たたきゲームを実感してみます

動体視力が関わっている事を実感するために隣の

席の人とジャンケンに勝った人が負けた人の手をたたくというゲームを実技で行い反応動作の関わりを実感しました。このゲームをトレーニングの前後に行うと速さと正確性を選手に考えさせる事ができるとの事でありました。

◎ 目の基礎体力を養う……

目を動かす跳躍性のトレーニング

サッカーのキックのインパクトのスピードは、早い人で0.2秒、遅い人では0.3秒程度ですが、目で見て早く動かすトレーニングを行うと0.5秒くらい早くする事が出来ますので、目のトレーニングの重要性がわかります。目玉を上下、左右、右回転、左回転、親指を60度位から広げて眼で追う上下左右、8の時等に連続して眼を追従させる、寄り目から遠くを見るなどを行うと良いとの事です。サッカーでは、近くのボールを見て、すぐ遠くの相手を



見る事が重要ですので、目のトレーニングはとても重要であります。

◎ 目の遠近のトレーニング

目のピントを合わせるのに0.5秒位、50、60代では2秒位かかるので、窓の外から遠くの文字などの一点を見てから、すぐ近くの手のしわ等を見るトレーニングを行うと良いとの事、寄り目での遠近トレーニングを行うと5歳位若い眼になる事があるそうです。

◎ 視覚認知（有効視野）トレーニング

1から25までの数字を若い順にすばやく見つけていくトレーニングを配布したチャートシートにて行います。普通の人、数十秒かかるトレーニングを何と日本人F1レーサーの佐藤琢磨選手は7秒、サッカーの視野が広いミッドフィルダも一桁で出来るそうです。リラックスして広く見ると、リラックスのトレーニングにもなり、広い視野が必要な集団競技（サッカー等）で有効であり、数字と「ひらがな」のチャートを交互に使うと良いそうです。

◎ 動体視力の実践トレーニング

野球のバッティングの時どこまでボールを見て、どこで振る判断をしているのか？ サッカーでドリブルをしている時どこをどう見ているのか？ テニスでラケットを振る時どこまでボールを見て、どこまで相手やコートを見ているのか？ これらの事を認識しトレーニングする事はとても重要であるとの事でありました。

◎ 野球の実践トレーニング

野球でまばたきのコントロールは重要で、肝心な時に瞬きをしないように、眼球移動筋のストレッチを行います。ボールを最後まで視線を切らずに正確に見るために、打撃の体勢で眼球の稼働域を広げます。投手とヒッティングポイントの遠近の焦点合わせのピントを切り替える。これらのトレーニングをバッティングの前にやると良いとの事でありました。

◎ サッカーの実践トレーニング

球技では、どこまでボールを見ているかを考えさせるのが重要で、ボールと周辺を見る視覚意識の比率を考えさせる。サッカーでは、ドリブル中にボールと周辺を見て、左右を見ながらパスを出す練習をします。眼球移動筋のストレッチを行い、リフティングしながら左右と正面を見ます。ボールを見ながら周りを見るのではなく、周りを見ながらボールを見るという逆転の発想で視野の意識を広げるトレー



ニングをすると良いとの事でありました。

◎ バスケットの実践トレーニング

コート全体の状況をどのくらい把握できるかを、状況を見た瞬間に速く反応するために視野と反応スピードのトレーニングを行い、数人で輪になってピンポンゲームを行います。これらの動体視力の実践トレーニングはとても有効である事をレクチャーしていただきました。

◎ 熱気のもった講演は時の経過を忘れさせる

先生の熱気のもった講演は、予定時間をあっと言う間に経過させました。参加者は100名を超えて、今回の講演で得た知識は、皆様のスポーツ指導に必ず結び付けられると確信出来る講演となりました。

(八木二三雄 記)

新年賀詞交歓会

平成27年1月28日(水)に文化会館4階大会議室にて143名の参加で新年賀詞交歓会が開催されました。

下田会長から「今年の体協として陸上競技場の建設推進やホームページの充実」などの熱気のもった挨拶に続き、坂本区長、茂野区議会議長にご挨拶をいただきました。



下田会長あいさつ

ご来賓の方々の紹介のあと、飯田顧問の乾杯により歓談となりました。

歓談中、下田会長から飯田金廣賞の発表があり、以下の6団体に授与されました。

たいへん賑やかで盛会の中、坂間監事による中締めと豊泉副会長の閉会のことばで散会となりました。

飯田金廣受賞

競技部門

- (1) 卓球連盟
第67回都民体育大会 女子チーム優勝
- (2) 水泳連盟
第68回都民体育大会 男子チーム優勝
女子チーム優勝

普及活動部門

- (1) バレーボール連盟
 - ・第44回全国ママさんバレーボール大会
A組 準優勝
 - ・関東大会Dブロック 優勝
8月30日(土)神奈川県川崎市とどろきアリーナにて、1都7県24チームで4ブロックに分かれて戦い、Dブロック優勝
- (2) 剣道連盟
平成26年 63回全国青年大会
男子団体 準優勝
平成26年 東京都青年大会
男子団体 優勝
- (3) 板橋区ソフトボール連盟
第20回関東社会人女子大会
優勝 東京ヤンキーズ
- (4) 空手道連盟
都大会・全国大会等で多くの入賞者を選出している
 - ・東京都小学生大会 ベスト8以上が26名
 - ・東京都中学生大会 ベスト8以上が4名
 - ・東京都 大会小女 女子 優勝
 - ・シニアの部 全国大会に都代表 優勝
 - ・全国大会 中学生の部 入賞

(関昭 記)



飯田金廣受賞者

加盟団体 代表委員会

平成27年2月23日(月)に、小豆沢体育館多目的室にて加盟団体代表者会議が開催された。

諮問事項は、原案通り答申された。

- 1 下田会長による開会の挨拶
- 2 「平成27年度事業計画(案)」について

高澤 誠専務理事より説明があり、大きな変更点は、以下の通りである。

- ・「体協ニュース」を従来通りの印刷物から『ホームページ』に掲載し“電子化”するという点。
- ・「中期マスタープラン」に基づき、新たな専門委員会を設置するという点。
- ・「指導者交流研修会」は、宿泊ではなく土曜日午後から板橋区内の民間施設(ボウリング場)を利用して行うという点。

- 3 「平成27年度収支予算(案)」について

吉田輝男常務理事より説明があり、基本的には前年度の実績に基づいた予算案となっている。

- ・自動販売機事業を廃止したため、雑収入から「自動販売機収入」が減り、自動販売機事業に関する支出も無くなったという点。
- ・体協ニュースを紙に印刷するのではなく、ホームページを活用する事としたという点。

- 4 豊泉副会長による閉会の挨拶

説明担当者が、細かく説明したので、代表委員からの質問も無く、穏やかに会議を終える事が出来た。

(浅賀公子 記)



下田会長挨拶



連盟協会だより

軟式野球連盟

第41回少年野球教室開催

11月24日に小豆沢球場で、小学1年から6年生220名が参加して、本連盟主催第41回少年野球教室が開催されました。講師に本連盟1部チーム、東京ラインプリンタ印刷(株)と理研計器(株)を迎え、児童選抜のオール板橋スタッフが補助として加わった。4年生から6年生までを12班に分け、それぞれに担当講師を配置し、きめ細かい指導体制を整えた。

開講式では、飯塚会長から講師の紹介と激励の言葉をもらった。その後、講師を代表して東京ラインプリンタ印刷(株)五十嵐氏から講習内容の説明を受けた。準備運動の後、キャッチボール、ポジション別のノックを行った。笑顔で熱心に指導する講師から丁寧な解説を受け真剣な表情の子供たちからも元気な声があがった。最後に選抜選手のオール板橋が模範演技して講習を終了した。この間低学年の子供たちは、基礎練習と模擬試合で野球の楽しさを体験した。寒い中、スタンドで見つめる保護者の熱心なまなざしが印象的だった。

閉講式で東京ラインプリンタ印刷(株)の荒巻氏から子供たちには「大きな声であいさつできる選手になってもらいたい」、コーチに向けては「子供の見本となるような思いやりのある声がけをしてほしい」と要望された。

最後に吉田理事長が講師へのお礼と、子供たちにはこの講習をきっかけにひとつ上のレベルで野球をするように、また東京ラインプリンタ印刷(株)から



配布された「野球ノート」を活用するようにと締めくくり終了しました。(小川幸二 記)

バレーボール連盟

平成26年度 第51回 城北四区対抗 選抜バレーボール親善大会の報告



平成26年11月8日(土)9日(日)二日間に渡り、城北四区の区代表選抜チームが練馬区立総合体育館で試合を行なった。

8日は家庭婦人各区4チーム選出16チームのトーナメント戦だった。1回戦目は同区が対戦しない様配慮をした組合せで行なった。準決勝で板橋No1、No2のASHとClub. Jiroが対戦した為、決勝戦は練馬のKVCと板橋のClub. Jiroが対戦をした。

結果 2位(板橋) Club. Jiro
3位(板橋) 板橋さくら
3位(板橋) ASH。

9日(日)は一般6・9人制男女、各区1チーム選出で4チームのトーナメント戦で行なった。

9人制男子、北区棄権で3チームのリーグ戦

1位(練馬) 石東クラブ
2位(板橋) IBナインズ

9人制女子

1位(板橋) B 2位(練馬) 早宮クラブ

6人制男子

1位(北) FBI 2位(板橋) エスビー食品

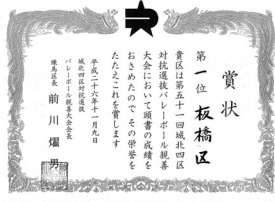
6人制女子

1位(北) ACT 2位(板橋) 伸クラブ

		1位	2位	3位	参加
種目別 得点	家庭婦人	6点	4点	2点	1点
	6・9人制男女	4点	2点	1点	1点

上記得点により総合得点
19点を取り1位となる。
選手の皆さんの健闘の結果である。

(川上祥子 記)



柔道連盟
板橋区柔道会

11月2日(日)第8回〈VIVA JUDO DO!〉杯小学生団体柔道大会が東京武道館で開催された。全国から129チームが集まり熱戦が繰り広げられた。板橋区からも、高宮道場、鈴木道場、やわら道場の3チームが出場し健闘した。

12月21日(日)に第59回東京都24地区対抗柔道選手権大会が講道館において開催された。

今回の板橋区は第2部で出場となった。1回戦板橋区は中野区と対戦し3対1とまずは順調に勝ち上がった。2回戦は文京区と対戦し3対2とこれも勝ち上がり迎えた準決勝は大田区と対戦したが一進一退の攻防の中2対3と惜敗し第2部3位となった。

第2部は1位と2位のみが1部A・Bの4位チームと入れ替えとなるため残念ながら今回も1部返り咲きとはならなかった。ここ数年各区とも有力選手の出場もあり実力が拮抗していく中板橋区代表選手も頑張り2部でも常に上位にはいり頑張っている。来年こそはの思いを抱いて会場を後にした。

2月22日(日)には小豆沢武道場において昇段審査会が行われその後、総会を開催し終了後懇親会が開催され多くの先生方が出席された。

(柔道連盟広報 中山俊昭 記)

剣道連盟
シニアの部新設

板橋区剣道連盟では、10月の板橋区民体育大会剣道大会において、新たにシニアの部を設けました。これまで一般の部は段位で二つに分けていましたが、高齢化社会が加速する中で年齢が幅広くなっていました。このため、シニアの方々から、「若い人たちと試合をするのは気が引ける」という声があがっていました。また、年齢差が大きいことにより激しい体当たり等での怪我も危惧されていました。このようなことから、シニアの方にも同年代の方々と



日本剣道形講習の模様

気軽に参加できるように新設したものです。

対外試合でもシニアの活躍が目立っており、6月に行われた東京都女子年齢別剣道大会では、50歳以上59歳以下の部において中野由美さんが優勝しました。また、10月に行われたシニア健康スポーツフェスティバルTOKYO剣道大会では、59歳～64歳の部において増田勲治さんが優勝しました。一方、若い選手の活躍も目立っており、9月に行われた東京都青年剣道大会で板橋区代表が男子団体の部で優勝、11月には東京都代表として全国青年大会に出場し、見事二位を獲得しました。また、同大会では、男子個人の部で山崎雄大選手が三位に入賞しています。

春と秋の段審査では、四段・1名、五段・9名、六段・8名、七段・1名の合格者を出しています。称号審査では、錬士・2名、教士・3名が合格しました。板橋区で行う三段以下・一級審査会では、春期に三段・29名、二段・48名、初段・55名、一級・53名が合格、秋期に三段・38名、二段・42名、初段・26名、一級・77名が合格しています。

一方、指導者の育成にも力を入れており、高段位の先生方を講師にお招きした中堅指導者講習会を年2回開催しています。四段以上および四段以上受審予定者が、日本剣道形、審判講習、模擬実技審査・指導稽古を受講しており、各人のレベルアップに努めています。



審判講習の模様

アーチェリー協会
高橋菅谷杯(公認)・板橋交流大会『略称』の審判をして

1月10日・11日の2日間にわたり二つのインドア大会の審判を務めました。

初日の大会は、押しも押されぬ公認大会、審判は選手の後ろに控え、安全に行射しているか目を配ります。また制限時間内ぎりぎりの射についてはレッドカードをいつでも出せるよう準備をしています。時間外の発射は最高点削除の罰則となります。危険な射についてはその場で注意・改善を即します。床板や観客席（危険ゾーン）に打ち込んだ場合、その場で競技を中止していただきます。選手は“矢をつがえ、弓を構えて射る。また弓を構え射る”緊張感漂う行射は全国大会に進む為の申請点争い。際どいライン付近に刺さった矢は、ルーペを使い多方向から刺さりを確認し点数をコールします。

二日目は創立50周年の記念大会、日頃皆様の協力に感謝し、アーチェリー協会が一般選手に開放した非公認大会。日頃練習のできない室内会場で、上級者と一緒に弓を射いた経験は、初心者にとっては将来の都大会・全国大会に向けたステップになると思います。

最後に、初心者に対し得点の記録は解かりやすく、崩した数字は読み間違いの原因にもなります。得点が抹消されないよう心掛けてほしいと思います。

(末次成人 記)

サッカー連盟

区民体育大会が盛大に開催される！

サッカー連盟の一般チーム（満18歳以上で構成）とシニアチーム（満40歳以上で構成）の大会は、年間を通しての「板橋区サッカーリーグ」と区委託事業の「区民体育大会（サッカー競技）」があります。今回はこの区民体育大会（サッカー競技）の様子を報告いたします。

区民大会は、一般（18歳以上）、シニア（40歳以上）中学生の3部門で開催されます。今年度は、一般25チーム、シニア12チーム、中学生32チームが参加して盛大に開催、連日熱戦が展開されました。

一般の大会は、11月2日1回戦、9日2回戦、16日準々決勝と進み11月23日に準決勝が行われました。また、シニアの大会は、11月9日1回戦、16日準々決勝と進み11月23日に晴天の荒川戸田橋サッカー場にて準決勝が行われました。

一般準決勝第一試合は、板橋・城北地域のクラブチームの「レパードFC」と板橋地域のクラブチームの「La Stella（ラ・ステラ）」が対戦しました。試合は一進一退の攻防で、双方無得点で前半を終え



る。試合が動いたのは後半2分、ラステラ大島選手が鋭い縦パスからのドリブルシュートで先制、しかし後半11分にレパード天河選手が同点のヘッドでのシュートを決める。その後は決着つかず同点でPK戦を行い4対3でレパードFCが勝利しました。

一般準決勝第二試合は、板橋北郵便局職員中心の「FC.POST」と、板橋地域のクラブチームの「ゴールデンキッカーズ」が対戦しました。前半9分、POSTはコーナーキックからシュートを打つが、ゴールポストに当たりノーゴール、その後は一進一退の攻防で前半を双方無得点で終え、試合はPK戦になり4対3でPOSTが勝利しました。

シニア準決勝第一試合は、志村地域を中心とするクラブチームの「FCアズサジョーカーシニア」と、板橋・城北地域のクラブチームの「レパードFCシニア」が対戦しました。試合は、運動量とテクニックを誇るアズサジョーカーが、6点の大量点で圧勝しました。

シニア準決勝第二試合は、板橋・桜川地域を中心とするクラブチームの「フェニックス」と前野地域のクラブチームの「北前野野フォーターワンシニア」が対戦しました。試合は、開始すぐの3分にセンターリングから決め、さらに6分にも得点を決めたフェニックスが、そのまま2対0で、決勝へと進みました。

大会のクライマックスである決勝戦は、東洋大学様のご厚意により、清水町に近年設立された「東洋大学総合スポーツセンター」の素晴らしい人工芝サッカー場で晴天の12月7日に行われました。

シニア決勝戦は、10時30分から「FCアズサジョー

カーシニア」と「フェニックス」にて覇権を争います。試合は、立ち上がりからジョーカーが押し気味に進め、5分に澤里選手が右から持ち込みドリブルシュートで先制する。しかし、その後は一進一退の攻防となり、徐々にフェニックスのペースと握り、再三の決定機を迎えたが、ジョーカーのキーパーの飯村選手が好セーブでしのぐ。後半に入り、4分にジョーカーの中村選手の鋭いセンターリングを、あわてたフェニックスのバックスが無念のオウンゴールで2点目を献上、更に28分に樋口選手がダメ押しへのヘディングシュートを決め、3対0でFCアズサジョーカーシニアがシニア部の覇権を獲得しました。

一般決勝戦は、12時から「レパードFC」と「FC.POST」にて覇権を争います。ここまで勝ち上がった両チームなので、開始から守りは固く、慎重なゲーム運びで、互いに好機を作らせない。一進一退の攻防で、前半は互いに譲らず、互角に渡り合う。後半に入ると、流れはレパードにいく、8分に攻め込み、天河選手が、ゴール前で、体で押し込んで先制点をゲットする。勢い付いたレパードは、続く10分にも山本選手が、逆襲から速攻を決めて追加点を奪う。その後は、ポストも必死に反撃に出たが、レパードの堅守に阻まれ、決定機を作れずにゲームセット。決勝戦に相応しく、両チーム共にスピード感のあるレベルが高い見応えのある好ゲームでした。

決勝戦の後に行われた表彰式では、第67回を数える伝統の優勝カップがFCレパードのキャプテンに渡され、チームの全員が優勝の栄華を満喫した様子で区民大会を終えました。戦後の砂まみれのグラウンドで始まった区民体育大会も67回を数え、今では芝生の立派なグラウンドで決勝戦を迎えられる事には隔世の感があります。ここまで育て上げて頂いた板橋区並びに板橋区体育協会の関係者に感謝の意を申し上げまして、サッカー連盟の連盟協会だよりと致します。

編集後記

体協ニュース第93号をお届けします。

各連盟・協会からご寄稿を頂き、誠に有難うございます。85号から横書きにし、レイアウトなどより親しみやすくしたつもりですがいかがでしょうか。新年度からは紙面での発行からホームページでの掲載中心となる予定です。(全く紙面での発行がなくなるわけではありませんが)引き続きご寄稿のご協力宜しくお願い

ボウリング連盟

第67回区民体育大会 ボウリング競技会開催



平成26年10月13日(祝)第67回区民体育大会ボウリング競技会が、トミコシ高島平ボウルにて開催されました。当日はAM9:30開場からぞくぞくと参加者が来場し、男子79名、女子48名、合計127名が参加しました。



最高齢参加選手は、男子：宇賀神辰治選手(86歳)、女子：石井良子選手(83歳)とボウリングの生涯スポーツとしての可能性がよく示されていたと思います。

試合方式は左右のレーンを交互に投球するアメリカン方式3ゲーム、男女年齢別合計9部門に分かれて熱戦が繰り広げられました。

マイボールで投球する選手、ハウスボールで投球する選手が共に同じBOXで投球する姿も多く見られ、競い合いながらもお互いのプレイをたたえあい、選手間の交流が多く見られた競技会となりました。他にボウリング連盟主催の各大会を開催しました。

- 第31回ダブルス競技会：平成26年11月16日
- 第22回会長杯競技会：平成27年1月18日

(場所：トミコシ高島平ボウル)

合計82名の連盟会員選手が集い、熱戦を繰り広げました。(鹿嶋真義 記)

いします。また各連盟・協会のイベントなど即時アップまたはリンクできるようにし、ホームページを通じて皆様方の活動を早く広くお伝えできるようにしております。是非体協ホームページを活用していただけたらと考えております。

今後とも関係各位の一層のご支援とご協力をお願い致します。(小堀幸子 記)